



題字は前同窓会会長門馬直孝氏

原高同窓会々報

3月1日 土曜日
平成26年(2014年)

発行所
福島県立原町高等学校
同窓会

福島県南相馬市原町区西町3-380
電話 (0244) 23-6196
印刷所 有限会社ライト印刷



混乱の最中に入学し 幾多の困難を乗り越えてきた134名 本日晴れて卒業

本日、福島県立原町高等学校 第66回卒業証書授与式が挙行されます。新たに会員となる一三四名のご活躍を心からお祈りします。

希望こそ生きる力



同窓会会長

渡辺一成
(十四回卒)

一三四名の卒業生のみならず、ご卒業おめでとうございませう。皆さんは東日本大震災が起った平成二十三年に入学されました。当初の入学予定者数が転校するなどにより半減し、約半年間はサテライト方式で相馬高校や福島西高校での分散授業となりました。秋から本校での授業再開となりましたが、生徒数は約四割という状態で、学校行事も思うようには行えない状態が続いたことは記憶に新しいと思います。

皆さんは双葉郡の高校生と同様、全国でも最も過酷な環境の中で高校生活を送られた訳ですが、それぞれの努力と協力によって本日無事卒業式を迎えられたことに改めてお祝いを申し上げます。

さて、この三年間を振り返り、様々な困難を乗り越えながら自分を前に進めてきたものがなんであったかを考えてみてください。家族の励みや希望があったからではないでしょうか。確かに絶望に陥ることもあったと思いますが、何時かは灯りが見えてくるだろうという希望が私たちを生かしてくれました。

当地方は震災と原発事故によって先の見えない状況に置かれ、復旧復興も思うようには進んでいません。しかし形のあるものは時間をかければいつかは元に戻りますが、難しいのは自立に向けた心の復興であることが阪神淡路大震

災の教訓として語られています。働かなくても賠償金で暮せている今の状況から、働いて暮らしたの糧を得る当たり前の生活へ戻することは容易ではないと考えられます。

当地方で人々が当たり前に暮らせるようになるのは、10年から20年くらいはかかるかも知れません。その中で皆さんがどのような役割を果たされるか。

卒業後、大学や社会でさらに学び、故郷の復興に力を尽くされることを心から願っています。皆様のご健康とご多幸を祈って祝辞とします。



原高への思い



校長 本多 光 弥

本日、原町高等学校体育館において、第六十六回卒業証書授与式を挙行できますことは、誠に嬉しいことであります。同窓会の皆様をはじめ、保護者の方々、地域の方々の力強いご支援に深く感謝申し上げます。

この度の百三十四名の卒業生は、中学校の卒業式終了直後にあの思わぬ大震災に遭遇した生徒達です。本校入学とともに、すぐに転校を余儀なくされたり、本校に残っても他校での借りの高校生を送るという苦しいスタートでした。定員二百四十名でスタートするはずが、平成二十三年五月に、ようやくサテライト方式により学校が再開した時点で一〇三名になっていました。本来登校するはずだった校舎を目の前にしてバスに乗り、相馬高校まで通った日々。福島西高校では教室が足りず、和室を二つに仕切った授業もありました。それもこれも今となって

は、支え合ってきた仲間や先生方と一緒に乗り越えてきた辛く、そして尊い思い出となりました。特に、本校での入学式を、残念ながら卒業生諸君にとり、本校体育館でのこの卒業式は、特別な意味があると思っています。

その生徒達も今年、最上級生として自覚を持った一年間を送り、立派な進路実績を上げるとともに、昨年復活した校内合唱コンクールでは見事な演奏を披露し、震災後初めての開催となった柏曜祭では、困難を乗り越え見事に復活した原高文化を地域に発信して見せました。

今回、新たに同窓会の仲間入りをする卒業生諸君は、どうしても原町高校を卒業したという強い思いで、本校を選んだ生徒達です。同窓生の皆様には、今後とも同窓会の一員として、末永くご指導を賜りますとともに、母校の発展を温かくお見守りいただきますようお願い申し上げます。

平成 26 年度
原町高等学校同窓会総会
8月9日(土) 17:00~
『ロイヤルホテル丸屋』(原ノ町駅前)
多数のご参加をお待ちしています。
お問合せ 原町高等学校同窓会事務局
TEL 0244(23)6196 FAX 0244(23)7909